

日本財託 賃貸仲介でVR内見サービス

複数の室内移動 効率よく探索

日本財託は、仮想現実（VR）を活用した内見サービスを開始した。

自宅や職場から、複数の部屋内部を移動しながら360度見渡せるサービスで、「無駄な内見を省くことができ、効率よく物件を絞り込める」（佐藤友昭・法人営業部部長）点が売り物。ファミリー向けを中心とした賃貸仲介物件を対象にスタート

し、売買仲介物件や投資用マンションなどにも順次広げていく考えだ。

エフマイナー（東京都渋谷区）が提供する「3D Stylee」というサービスを活用した。同社はギャラリーの運営や現代アートのオンラインサービスに携わっている関係上、「画像処理がきれい」（佐藤部長）なのが特徴だ。

具体的には日本財託から紹介した物件や図面などから見たい物件を絞ってもらった上で、日本財託の社員が室内を360度カメラで撮影。VRコンテンツに加工して、複数の部屋を移動できるようにした。利用者は自宅や職場からスマートフォンやパソコンによって、現地にいるような感覚で内見し、部屋を決定する。



VRを使った内見。自宅や職場から複数の部屋を移動しながら、360度見渡すことができる

不動産情報サイトの拡充などによってお目当ての物件をあらかじめ絞り込めるようになったが、最終的には部屋を訪れて内見してから決めたいというニーズが強い。

しかし、転勤に伴う借上げ社宅探しについては物理的・時間的な制約があることから、大

きな負担となっているのが現状だ。このためVRサービスの提供で、時間・コスト面の軽減化につなげる。

同社ではこれまでも借上げ社宅の仲介で、独自の内見代行サービスを提供。専門スタッフによるビデオ撮影と動画の提供やリアルタイム中継などを行ってきた。今回の新サービスを機に、物件探しの効率性を向上させる。